

地域振興用周波数の有効利用のための技術的条件に関する調査検討会(第1回)
議事録(概要版)

日時：平成27年7月3日(金) 15時00分～17時00分

場所：ヒューモスファイヴビル8階大会議室

(仙台市青葉区中央1丁目10番1号)

1. 開会

総務省東北総合通信局 竹内局長より挨拶が行われた。

2. 配布資料の確認

3. 開催要綱の承認

資料1-1に基づき、事務局より説明が行われ、了承された。

4. 議事

(1) 調査検討会の概要及びスケジュールについて

資料1-3に基づき、事務局より調査検討会の概要及びスケジュールについて説明が行われた。本件について特に質疑応答はなく、確認された。

(2) 地域振興MCAの概要について

(3) 地域コミュニティ無線システムの概要について

資料1-4、1-5に基づき、事務局より地域振興MCAの概要、地域コミュニティ無線システムの概要について説明が行われた。以下に主な質疑応答を示す。

● マリンコミュニティホーンにも防災無線の用途を付けるのか？

→防災無線の用途を持たせるのではなく、あくまで市町村が開設する同報系防災行政無線と接続可能であるという意味である。

● 現在のマリンコミュニティホーンと同じ電波の到達距離をカバーできるのか？

→今回の調査検討会の実験で調査するが、電波の出力が同一であれば変わらない。

(4) マリンコミュニティホーンシステムの概要について

資料1-6に基づき、マリンコミュニティホーンシステムの概要、利用状況について説明が行われた。以下に主な質疑応答を示す。

● マリンコミュニティホーンと国際VHFとの使い方の違いは？

→国際VHFは国際的に商船間の通信に使われている。国際VHFは無線従事者の資格が必要であるが、マリンコミュニティホーンは移動局(ユーザ)側に無線従事者の資格がいらぬ。

(5) 資料1-7に基づき、デジタル化モデルの検討と無線システムの諸元について説明が行われた。以下に主な質疑応答を示す。

● デジタルとアナログデュアルモードに対応する必要があるのか？

→ デュアルモードであれば利用者が端末や基地局を段階的に移行することができる利点がある。しかしながらアナログ方式がまちまちであるため、必ずしも実現できるものではない。

※ デジタル方式の一例として参考資料に基づき、説明が行われた。

(6) 干渉モデルの検討とラボ内検証の方法について

(7) 実証試験の概要について

資料1-8に基づき、干渉モデルの検討とラボ内検証の方法及び実証試験の概要について説明が行われた。以下に主な質疑応答を示す。

● 干渉試験の変調方式は4値FSKのみで行うのか？

→ 資料1-7に挙げた条件に近い4値FSKを進めたい。

● 実証実験の環境では、符号間干渉も考慮した場所の選定をした方がよい。

→ 考慮するが、今回はビットレートが低く、符号間干渉は起きないと思われる。

(8) その他

以上